

「2019 日台観光サミット in 富山」の開催結果について

令和元年5月27日
観光振興室

- 5月23日(金)～5月26日(日)、台湾からの訪日旅行・日本からの訪台旅行双方の促進と、相互交流人口の拡大を目標として、日台双方の旅行業界の経営者や観光業界のトップが一堂に集い、関係強化を図る「2019 日台観光サミット in 富山」を開催しました。
- サミット会議では、「日台観光サミット 富山宣言」が合意されたほか、交流会や県内視察を通じて、参加者の皆様に富山県の多彩な観光資源の魅力を紹介し、今後の台湾からの県内全域への一層の誘客を図るとともに、開催を契機とした富山ー台北便のさらなる利用拡大やスポーツ分野での交流促進など、双方向の交流を促進するためさまざまな分野での関係強化を図りました。

1 日程等

(1) 主な日程

日時	行程	場所
5月23日(木) 午前 午後	富山空港/富山駅着 エクスカーション 歓迎晩餐会(富山県主催)	海王丸パーク、富山県美術館 ANAクラウンプラザホテル富山
5月24日(金) 午前 午後	サミット会議 昼食交流会 エクスカーション 夕食交流会(県・西部6市共催)	同上 同上 県西部3コース ホテルニューオータニ高岡
5月25日(土) 全日	エクスカーション 昼食交流会 夕食会	県東部3コース 海の駅蜃気楼
5月26日(日) 午前	エクスカーション 富山空港/富山駅発	氷見、雨晴海岸

(2) 主催

- サミット会議：日台観光推進協議会、台日観光推進協議会
((公社)日本観光振興協会、(一社)日本旅行業協会、台湾交通部観光局、台湾観光協会)
- 歓迎晩餐会、現地視察等：富山県 ほか

(3) 「2019 日台観光サミット in 富山」の参加者

日台双方の旅行会社・会社、観光関係団体の長等 台湾側 84名、日本側 107名
地元参加者 145名

2 主な事業概要

(1) 日台観光サミット

○開催日時：令和元年5月24日（金） 8：30～12：00

○場 所：ANAクラウンプラザホテル富山 3階「鳳」

○参加者数：216名（台湾79名、日本137名うち富山県関係者34名）

○開催概要

「均衡ある日台双方向交流を目指して～2020日台観光交流新ビジョンの構想～」を開催テーマとし、日台観光交流の動向に関する基調報告、さらなる交流の拡大に向けた意見交換が行われ、「日台観光サミット 富山宣言」が合意された。

【「日台観光サミット 富山宣言」のポイント】

- ・「日台観光サミット 富山宣言」では、「相互交流人口800万人の実現」を目指すことが合意された。「台北宣言」が合意された2008年の第1回開催では300万人、「三重宣言」が合意された2013年の第6回開催では400万人を目指すこととされ、2018年の日台の交流人口は673万人であり、大変意欲的な目標設定となった。
- ・意見交換の部では、石井知事から「本県の豊かで美しい自然は、さまざまな先進的な環境保全の取組みによって県民の大切な財産として守られており、今後の観光振興を図るためには環境に配慮した持続可能な観光交流を目指すべきであること」について、事例を踏まえ発言した。その結果、富山宣言には、「自然環境等観光資源の保全に努め、相互の持続可能な観光交流をこれまで以上に発展させる」との文言が盛り込まれた。
- ・また、石井知事から「立山黒部アルペンルートへの台湾観光客数は、2003年の約2万人から2018年は13.8万人まで増加している。2012年から運航を開始した富山ー台北便は、一昨年から通年週4便化されており、今後の拡充も含めて地方との交通ネットワークの充実が求められること」「相互交流の拡大を目指すためには、観光分野のみならず幅広い分野での交流が必要であること」について発言がなされた。交流人口の拡大には、大都市のみならず地方都市への誘客が不可欠であることや、個人旅行者（FIT）化とあわせて訪問先の志向も体験型観光など多様化していることなどを踏まえ、「日台双方の新たな魅力の創出や航空路線の充実による地方都市への誘客拡大」との文言が盛り込まれた。



(2) 関連行事、県内視察等

会議前日・当日には、歓迎晩餐会、夕食交流会を実施。県産食材の粋を集めた料理、伝統芸能の披露などのおもてなしで双方の交流を深めたほか、観光PRブースや富山ゆかりの記念品の贈呈などで本県の魅力を発信した。

また、あわせて県内視察を設定し、参加者の皆様に県内各地の新たな魅力や観光素材をアピールするため、本県の多彩な歴史・文化、富山湾の眺望や海の恵み、個性あふれる体験プログラムなど組み入れた視察を実施した。全行程を通じて天候に恵まれ、いずれのコースも視察先の歓迎のなか積極的な交流が行われ、好評を得た。

さらに、富山ー台北便PRラッピング電車出発式、富山マラソン・菊島澎湖跨海マラソン友好提携協定締結式、射水市・台北市士林区友好協定覚書仮締結式が実施され、今後、さまざまな分野での双方向交流の礎となることが確認された。

○歓迎晩餐会 (5/23)、夕食交流会 (5/24)



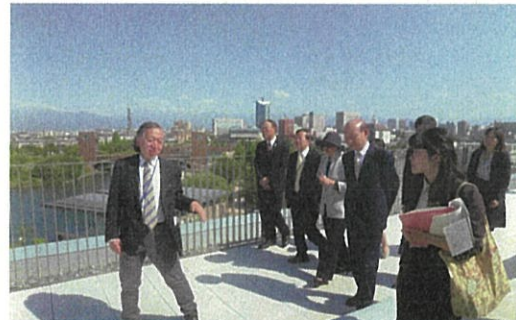
○富山ー台北便PRラッピング電車出発式、富山マラソン・菊島澎湖跨海マラソン友好提携協定締結式、射水市・台北市士林区友好協定覚書仮締結式



○県内視察

- ・富山県の新たな観光資源を直接見られてよかった。今後とも密な連携をしていきたい。
- ・自然景観や食べ物、歴史・文化、体験型観光など、旅行会社がツアーを組む上で不可欠な要素を全て網羅したエクスカッションだった。今後のツアー造成の参考としたい。
- ・行く先々での熱烈なおもてなしに感激した。お土産をたくさん買って帰りたい。
(全体・台湾航空関係者、旅行関係者)
- ・ドラえもんは台湾でも人気であり、同様の企画を考えたい(桃園市副市長)
- ・街の雰囲気がよく、湧水も甘くて美味しい。きっと暮らしやすいだろうと思った。
(25日生地まち歩き・台湾旅行関係者)
- ・蟹気楼を初めて見られて感激した。浜焼きも盛りだくさんで美味しかった。
(25日海の駅蟹気楼・日本旅行関係者)
- ・海沿いのサイクリングコースは気持ちよく、フォトスポットが何か所もあった。
(26日サイクリング体験、台湾旅行関係者)

○なお、台湾側の代表者から最終日の帰台に際し、知事に対して「富山県は観光資源が豊富でおもてなしの心も素晴らしいことがよく分かった。新たな旅行商品開発が考えられるので、関係事業者を数名残し、検討を進めさせたい」旨の伝言が伝えられた。



日台観光推進協議会
NEWS RELEASE

令和元年5月24日
日台観光推進協議会事務局
公益社団法人日本観光振興協会 企画本部
旅行振興部門 担当:阪本・田代・加藤
TEL:03-6435-8334 FAX:03-6435-6921

一般社団法人日本旅行業協会
海外旅行推進部 担当:千葉・権田
TEL:03-3592-1274 FAX:03-3592-1268

日本と台湾の双方向交流拡大に向け
「2019 日台観光サミット in 富山」を開催しました。

日台観光推進協議会（会長 山西 健一郎、事務局：公益社団法人日本観光振興協会・一般社団法人日本旅行業協会）は、台湾側のパートナーである台日観光推進協議会（会長 葉菊蘭、事務局：財団法人台湾観光協会）と「2019 日台観光サミット in 富山」を5月24日（金）に富山において開催し、①日台双方の新たな魅力の創出や航空路線の充実による地方都市への誘客拡大、②経済・スポーツ・文化・歴史等による観光交流の推進、③若年層の双方向交流の拡充、④商談会の開催や旅行博事業等での連携強化による日台双方向でのPR推進などを軸とした日台観光サミット・富山宣言に合意しました。

「日台観光サミット」は、台湾からの訪日旅行・日本からの訪台旅行双方の促進と相互交流人口の拡大を目標として、平成20（2008）年に日台双方の旅行業界の経営者や観光業界のトップが集い、第1回の会議を台湾の台北市で開催しました。その後、日本と台湾で一年交代で開催され、今回が12回目の開催となりました。次回は2020年に台湾の桃園（とうえん）市で開催される予定です。

会議の概要については、別紙をご覧ください。

- <別紙1> 2019 日台観光サミット in 富山開催概要、富山宣言、サミットの様子(写真)
- <別紙2> これまでの日台観光サミットの概況と日台間双方向交流人口の推移

「2019 日台観光サミット in 富山」開催結果概要

1. 日時 2019年5月24日(金) 8:30~12:00
2. 場所 ANA クラウンプラザホテル富山 3階 鳳
3. 主催 日台観光推進協議会・台日観光推進協議会
4. テーマ 「均衡ある日台双方向交流を目指して～2020 日台観光交流新ビジョンの構想～」
5. 主な出席者

<日本側>

山西健一郎 (日台観光推進協議会会長・日本観光振興協会会長)
本保 芳明 (観光庁参与)
舟町 仁志 (日本台湾交流協会専務理事)
蟻川 彰 (日本観光局理事)
坂崎 龍介 (北陸信越運輸局長)
石井 隆一 (富山県知事)
田川 博己 (日本旅行業協会会長)

ほか、地方自治体・観光協会、観光業界、旅行関係者等 103 名

開催地富山県関係者 34 名

<台湾側>

葉 菊蘭 (台日観光推進協議会会長・台湾観光協会会長)
謝 長廷 (台北駐日経済文化代表処代表)
周 永暉 (交通部観光局長)
李 世丙 (台北駐大阪経済文化弁事処処長)
李 憲明 (桃園市政府副市長)
鄭 憶 萍 (台湾観光協会東京事務所長)

ほか、台湾側観光業界、旅行関係者、運輸機関、メディア等 79 名

日台合計 216 名

6. 日台観光サミット富山宣言(日本語)

日台観光サミット 富山宣言

日台観光推進協議会は2019年5月24日、日本・富山県において「2019日台観光サミット in 富山」を開催し、今後の日台間の相互交流の促進について議論を行った。

その結果、日台双方は2020年までに相互交流人口800万人の実現をめざし、より一層の協力と連携を図ることで一致した。

具体的な施策として、日台双方の新たな魅力の創出や航空路線の充実による地方都市への誘客拡大、経済・スポーツ・文化・歴史等による観光交流の推進、若年層の双方向交流の拡充、商談会の開催や旅行博事業等での連携強化による日台双方向でのPR推進などを行うとともに、自然環境等観光資源の保全に努め、相互の持続可能な観光交流をこれまで以上に発展させることとする。

上記の目標を実現させるため、今後も定期的に「日台観光サミット」などの会合を実施し、日台双方の観光業界の友好関係を更に深め、観光交流を通じて社会の発展に貢献していくものとする。

2019年5月24日

日台観光推進協議会
 公益社団法人日本観光振興協会
 会長 山西健一郎
 台日観光推進協議会
 財団法人台湾観光協会
 会長 葉 菊蘭

7. サミットの様子



これまでの日台観光サミットの概況と日台間双方向交流人口の推移

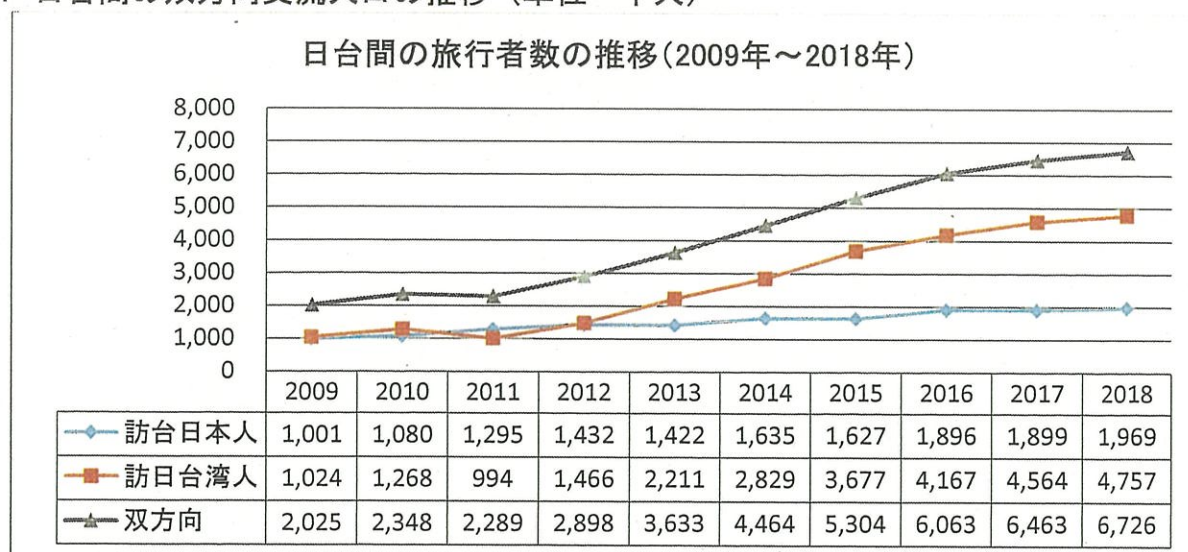
1. 開催のきっかけとこれまでの経緯

日台観光サミットは 2008 年に当時約 250 万人だった日台間の双方向交流人口を 300 万人に拡大することを目指し、台北市で初めて開催された。その後、新型インフルエンザの流行や東日本大震災などがあったものの、2013 年には当初目標としていた双方向交流人口 300 万人を達成した。2013 年の「日台観光サミット三重宣言」では、2016 年までに双方向交流人口 400 万人を目指すことに合意し、日台双方でさまざまな交流が行われた結果、昨年目標となる 400 万人を 2 年前倒しで達成した。また、2016 年には双方向交流人口が 600 万人を超え、年々堅調に伸びている。

2. これまでの日台観光サミットの開催状況について

- 第 1 回・2008 年 3 月 台湾・台北市（日本側 31 名、台湾側 61 名、合計 92 名）
- 第 2 回・2009 年 3 月 日本・静岡県（日本側 77 名、台湾側 54 名、合計 131 名）
- 第 3 回・2010 年 3 月 台湾・南投県（日本側 39 名、台湾側 86 名、合計 125 名）
- 第 4 回・2011 年 7 月 日本・石川県（日本側 63 名、台湾側 46 名、合計 109 名）
- 第 5 回・2012 年 7 月 台湾・花蓮県（日本側 77 名、台湾側 101 名、合計 178 名）
- 第 6 回・2013 年 5 月 日本・三重県（日本側 153 名、台湾側 57 名、合計 210 名）
- 第 7 回・2014 年 5 月 台湾・屏東県（日本側 85 名、台湾側 151 名、合計 236 名）
- 第 8 回・2015 年 5 月 日本・山形県（日本側 150 名、台湾側 62 名、合計 212 名）
- 第 9 回・2016 年 5 月 台湾・宜蘭県（日本側 116 名、台湾側 139 名、合計 235 名）
- 第 10 回・2017 年 5 月 日本・四国（日本側 126 名、台湾側 85 名、合計 211 名）
- 第 11 回・2018 年 5 月 台湾・台中市（日本側 127 名、台湾側 97 名、合計 224 名）

3. 日台間の双方向交流人口の推移（単位・千人）



※台湾→日本の統計については、日本政府観光局（JNTO）の統計による

※日本→台湾の統計については、台湾交通部観光局の居住地別統計による